

幼 兒 の 生 理 (二)

醫學博士 搦 田 信 夫

聖戰の鳳詔煥發せられて爰に一年、世界新秩序建設の大東亞戰は漸く長期持久戰の内容ニ形態ニを備へてきた。勝利を得るまでは吾々の時代より吾々の孫の時代へニ繼續せねばならぬ戰爭である。故に次代を擔ふ少國民、乳幼児への國家の期待は甚だ大で、その健康の養護、體位の向上は喫緊の要務である。昭和十四年以來國民體力法に基く乳幼児の一齊診査及び健康診斷、相談が實施せられ體力向上に國家が管理するところになつたが家庭に於いても育兒報國以つてこの要望に應へねばならない。乳兒及び就學兒童に就いては幾多の調査、研究が行はれてゐるが就學前の五歳—七歳を對稱とする幼児は家庭内に終始するのでその集團的調査、研究が困難で行續も比較的少い。

最近特に學校衛生が云々されつゝあるが就學前の幼児の體位、發育過程に就き正確な認識を持つことは必要の事と思はれる、私は主に整形外科領域より幼児の生理に就き述べらるゝ。

一、身體發育

人間の心身發達の區分には其觀點より種々の分類法があるが生理解剖學的に身體發育の特徴より發育の時期は兒童に到るまで次の様に分類される。

- 1、新生兒期、生後一週間の臍緒が脱落する迄をいふ。
- 2、哺乳兒期、生後七月或は九月頃迄の第一生齒の生ずる迄を云ひ、寢返り、匍匐運動をする。
- 3、中性小兒期、乳齒期とも云はれ約七歳迄の第二期生齒の生ずる迄で此時期をストラットは更に第一充實期(二歳より四歳の間)と第一伸長期(五歳より七歳の間)に分類してゐる。前者では起立、歩行が開始され身長は、體重、胸圍等は總體的に増加し、後者では特に身長が増加が大で幼稚園兒はこの第一伸長期に相當する。

4、兒童期、八歳より十四歳の國民學校就學期より春期發動期の始まる頃迄で、ストラットは更に第二充實期(八歳より十歳の間)と第二伸長期(十一歳より十五歳の間)に分

表準標育發體身兒幼

6年	5 $\frac{1}{2}$ 年	5年	4 $\frac{1}{2}$ 年	4年	3 $\frac{1}{2}$ 年	3年	2 $\frac{1}{2}$ 年	2年	1 $\frac{1}{2}$ 年		
105.6	103.2	100.3	97.5	94.7	91.9	88.5	85.0	81.3	77.7	男	身長 (糎)
104.6	102.4	99.5	96.7	93.6	90.5	87.2	84.0	80.2	76.2	女	
17.05	16.32	15.65	14.99	14.27	13.55	127.3	11.92	11.02	10.11	男	體重 (瓦)
16.56	15.92	15.21	14.50	13.73	12.97	12.16	11.35	10.40	9.46	女	
53.9	53.8	52.9	52.0	51.1	50.1	49.3	48.4	47.6	46.7	男	胸圍 (糎)
52.0	51.4	50.7	50.0	49.4	48.8	48.0	47.0	46.2	45.5	女	
16.8	15.5	15.5	15.5	15.1	14.6	14.4	14.0	13.6	13.0	男	比體重
15.8	15.5	15.3	15.0	14.7	14.2	13.9	13.5	13.0	12.4	女	
51.0	52.1	52.6	53.3	53.9	54.5	55.7	56.9	58.5	60.1	男	比胸圍
49.6	50.1	50.8	51.7	50.3	53.9	55.0	55.9	57.6	59.7	女	

類してゐる。

吉永氏に依る幼児發育標準値を表示すれば(上表)

身長は滿一年後は新生兒身長の二分一増長、爾後三年迄毎年六一〇糎増長、其後は毎年五糎を増し十五歳で約三倍即ち一五〇糎なる。體重は一年後は新生兒の二倍になり、五年後には五倍、十三年後には十倍に達する。年度別に我國の幼児の體格の推移を見ることは出来ぬが就學兒童により其傾向を察知することは出来るであらう。即明治四十五年度(大正元年度)以降昭和十一年度に至る二十五ヶ年間に於ける七、八歳兒童の身長・體重・胸圍は何れも僅少ながら昭和三年代に於て増加を示してゐる、比體重、比胸圍は男女共に大正年代と昭和年代とで比較するに兩年代間に特別の差異はない。

就學前幼兒は家庭の愛撫の中に生活し終日自由に遊び續け腕白も日増しに激しくなり家庭の暴君となるが學校生活が始まるに俄然生活様式が變り、起居動作に或程度の自由が束縛され、集團生活に依る精神的、肉體的の疲勞殊に椅子に腰かけてゐなければならぬさいふ事等より體格に反影して一時體位低下を來す。即腰かけに依り背筋の疲勞より軀幹を曲げ脊柱の不正彎曲を生じ呼吸、血行に障礙を起すのである。之は幼稚園生活に依つても同様な影響を輕微ながら將來することが考へられる。併し就學時のこの變動を

幼稚園にて先づ緩和に馴化せしめ、且家庭の偏倚的生活を是正して正しい保育を行ふことが望まじきことである。

東京女子高等師範附屬幼稚園の男七七名、女五九名の身體計測値は次の如く

6年	5年	身長	體重	胸圍	坐高	比體重	比胸圍	比坐高
107.8	102.1	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女
107.2	101.1							
18.7	17.1							
18.1	16.8							
54.5	52.5							
52.2	50.9							
60.5	58.6							
60.7	57.3							
17.3	16.7							
16.8	16.6							
50.6	51.4							
48.6	50.3							
56.1	57.4							
56.6	56.6							

本表に依れば五年六年男女何れも標準發育表よりも増大を示してゐる。權威ある保育の實施せられてゐる幼稚園として首肯せられる爲であるが之を以て直ちに幼稚園児その他の幼兒との比較は地方的差異、園児採用方法、少數の被験者等より困難である園児體格の一斑を知ることができよう。

(續)

小林よし先生を悼む

兩國幼稚園長小林よし先生には去る三月二十七日八十七歳の御高齡を以て御逝去なさいました。謹みて御哀悼申し上げます。先生は明治十三年東京女高師の保姆實習科の御卒業でいらせられました。

幼稚園の畑(第三頁から)

花壇に水をそゞき、艶なる大輪の花の傍にたゞすみ給ふ先生方の姿は、美の教育者として、幼兒の情操教育にこり捨て難きものであらう。しかし、畑いぢりにお手もあれて、もんぺ出て立ち蹴をこる姿は時局下女性性の姿として、如何に教育効果を幼兒に與へるものであらう。先生であると共に増産戰士である先生こそ、幼兒の敬仰の對象たらざるを得まい。

幼稚園の畑が、園外附屬農作地にまで延長擴大すれば、これに越したことはない。現にその施設をもたれる幼稚園も少なくあるまい。静岡市の櫻花幼稚園の如き、その先驅の一つであるが、各方面からの御報告をいたゞきたいものである。そして、園毎に普及させてゆきたいものである。是非御報告をお送り下さい。御收穫をお送り下さつても誠に結構であります阿々。

(倉橋生)